

# 私たちの町、今とこれから

1年2組

## ●今の私たちの町

平成23年、3月11日、午後3時頃、私はこれまでにないほどの強い地震に見舞われ、私が生まれ育った町は

一瞬で津波に飲まれました。私の家も今はただのガラクタの山になっています。

津波は私たちが今まで築いてきた町を奪い、絶望を与えて去っていきました。自分たちが今まで平和に暮らしてきた町は、今は、影も形もありません。災害前、活気に満ちていた住民の方々は全てを奪われ、失ったショックを隠しきれておらず、人目を憚らず、溜息をつく毎日でした・・・。

ですが、日が経つにつれて、全国からの救援物資はどんどん増えていきました。救援物資とともに入っていたメッセージカードには、「負けないで」、「私たちがついています」、「一緒に乗り越えよう」、などたくさんの応援メッセージが書いてありました。そのメッセージは、私たちにとって、復興の兆しとなりました。被災地の人々の気持ちは一歩ずつ、確実に変わってきています。

自衛隊の方々を始め、日本各地からボランティア団体の方々が毎日、被災地を訪れ、被災者の心と体のケアをしてくださるおかげで、沈みかけていた町が活気を取り戻してきました。

町の復興はいつになるか分かりませんが、きっと、今まで以上に活気に満ちた町になると信じています。一日も早く、あの頃の町が再興できるようにと私は信じています。



・撮影日時 平成23年6月16日

・場所 広田(天王前)

・コメント コミセンの前です

## ●これからの自分

私はこの震災で全国の様々な人達の支援を受け、人の心の温かさを知りました。この震災から立ち直れたのは、支援してくださった皆さんのおかげだと思っています。いつ復興するか分からない状況ですが、少しでも支援してくださった皆さんに恩返しができるかなと思っています。

皆さんの支援は被災地に希望の光をもたらしてくれました。

私は生涯、この震災を忘れることはないでしょう。確かに、家や活気を失った絶望的な出来事ではありましたが、私はこの震災がこれからの人生を生きていく中でとても貴重な体験をしたのだと感じます。この震災があったことで、得られたものが多々ありました。自分が当たり前のように過ごしてきた暮らしができなくなったことで、自分が何のために生きて、誰の支えがあって生きているのかを考え直すことができました。私は人の役に立ちたい。支えてもらった分、誰かを支えてあげたい。そう思っています。恩返しのためにできることはたくさんあると思います。

募金やボランティアなど、自分ができることを積極的に行っていきたいと思っています。

そして、津波の恐ろしさをより多くの人に知ってもらいたいと思います。もう一度、このような震災が起きたとき、一人でも多くの人達の命が助かるように。この先も大変な生活になるとは思いますが、私はくじけず頑張っていきたいと思っています。



・撮影日時 平成23年6月16日

・場所 広田(天王前)

・コメント 被害に遭った家々